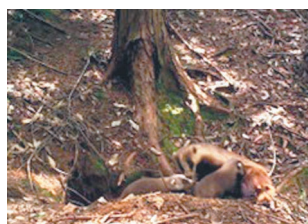


春は出産の季節

「ほっとやはく」

タイム③⑤



アナグマの生後約2カ月たった子どもと親



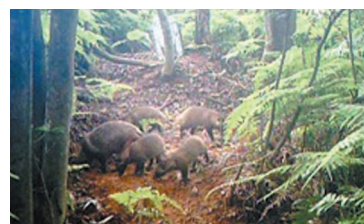
母親を先頭に移動するアナグマの親子

す。出産・子育てはその中の一つを使い行います。出産は2月下旬から4月上旬、1〜4頭の子を産み、巣穴の中で育てます。子育ては母アナグマのみで行います。子は小さく生まれ（推定100g程度）、巣外に出てくるのは約50日近くたつてからです。子は、巣外に出てきた時の動きはたどたどしいですが、日に日に機敏になり、巣穴の周りで遊び回ります。お母さんはおっぱいをあげ、子どもの毛づくろいをし、よく面倒をみます。1年間、子どもたちは母親と共に過ごし、晩秋には母親と変わらない大きさに成長します。

タヌキはアナグマと違い、夫婦で子育てをします。タヌキは、人間の環境にも順応し、普段水が流れない側溝の中や、空き家の床下、草むらなども利用し出産・子育てをします。子どもたちは秋まで親と一緒に過ごします。翌春には早い個体は、相手を見つけ、出産・子育てをします。



両親に見守られる生後約3週間のタヌキの子ども



生後約2カ月のタヌキの子どもと親

タヌキの出産・子育て

タヌキはアナグマと違い、夫婦で子育てをします。

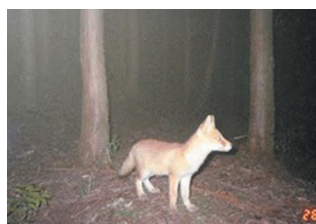
県内は平野部が少なく、近くに山があり、森があります。その里山に暮らす野生動物の中で、中型哺乳類として親みのあるアナグマ、タヌキ、キツネの巣穴を拠点とする子育てについて紹介したいと思います。

キツネの出産・子育て

キツネは、アナグマやタヌキと比べると一回り大きな動物です。調査地内で毎年子育てをしますが、いつも決まって使う巣穴はありません。出産は3月中旬から4月中旬、1〜5頭の子を産みます。キツネもアナグマ同様、雄は交尾のみで子育てには参加しません。



子どもたちに授乳するキツネの母親



きょうだいで遊び回るキツネの子ども



アナグマ、キツネ、タヌキが子育てに使った巣穴

カメラではよく撮影されます。雄の子は秋には母親のもとを去り、新たな場所に移ります。

里山の動物たちのにぎわい

アナグマが産出・子育てに使う巣穴も、20〜30年の長い周期で見ると、キツネやタヌキが産出・子育てに利用しています。アナグマはたくさん巣穴を持っているため、他の動物も利用することが可能です。

住宅地の裏山である里山に一步踏み入れてみると、野生動物たちのにぎわいを感じることができると思います。

田中浩（動物担当学芸員）

▽次回は4月5日です。

※写真はいずれも山口市内

山口県立山口博物館
TEL083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで

